

平成28年度 事業報告書

目次

I 事業総括	1
II 事業報告	
1 調査啓発事業	2
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	4
3 資源化事業	6
3-1 剪定枝等処理事業	6
3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業	8
3-3 施設管理受託事業	10
(1) ごみ資源化工場施設管理事業	10
(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	14
(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	16
(4) 札幌市リサイクル団地管理事業	18
3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業	20
4 事業系ごみ収集運搬事業	22

I 事業総括

平成 28 年度は、各事業とも概ね当初計画通りの事業運営を行った。

調査啓発事業では、固形燃料の増産に関する調査研究など、新資源化技術導入に関する調査研究等を実施した。

資源化事業については、各施設とも概ね当初計画どおりの資源物を受入れ、安定した運営を行った。

事業系ごみ収集運搬事業における収集量 (m³) は、前年度実績比で 0.3% の微減 (計画比 0.4% 増) と概ね当初計画どおりの事業量となった。また、家庭から排出される一時多量ごみについて、市民ニーズに対応して月曜から土曜日まで収集できる体制を整えた。

重点項目の実施結果

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

効率の悪い収集コースの見直しを行うとともに、1 回当たりの収集量の少ない事業所の収集回数を減少するなど、収集実績に応じた収集回数の変更折衝などを行った。

(2) 設備・システムの計画的な更新・保全

中沼資源選別センターでは、施設整備計画に沿い、中央操作室監視装置更新等の設備の更新を行った。また、平成 26 年度より進めてきた事業系ごみ収集運搬事業における「業務管理システム」の開発が終了し、28 年 4 月より運用を開始している。

(3) 新たなリサイクルへの研究開発

資源ごみ (紙くず、木くず、プラスチック) の搬入量が減少している資源化工場について、新たな廃棄物を活用した固形燃料の生産等に関する調査研究を札幌市並びに関係事業者と連携を取りながら実施した。

(4) 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応

収集員の技能の向上、顧客満足度の高いサービスの提供などを目的に「ごみ収集マイスター認定制度」を新たに設け、平成 28 年度は 11 名を認定した。

また、市内の小学生が描いた、「びん・缶・ペットボトルリサイクル」の啓発ポスターをごみ収集車にラッピングした「走る掲示板」による啓発活動を行った。

(5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

「業務管理システム」の更新が完了したことから、10 月に企画部を廃止し、財務などの管理部門を強化する機構改革を行った。

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業 (決算額 52,425,920 円)

■ 調査研究事業

新資源化技術導入に関する調査研究

紙くず、木くず、プラスチックの資源ごみが減少している資源化工場について、固形燃料の増産等に関する調査研究を札幌市並びに関係事業者と連携を取りながら、下記について実施した。

- ① 平成 28 年度は、資源化工場に隣接する篠路破碎工場に搬入されるごみの中に、多量の木製家具等の木くずが含まれ、その殆どが固形燃料の原料として利用可能であることを確認したほか、破碎ごみを選別するためのヤードを屋外に設営し、木くずの選別や再搬入を行った。
- ② 山本処理場の家庭系枝葉草の堆肥化処理で選別されたビニール袋の現地調査を行い、固形燃料の原料として利用可能であることを確認した。平成 29 年度においては資源化工場で処理試験を予定している。
- ③ 札幌市が留萌市に提供する刈草ともみ殻等を原料としたバイオコークスの製造試験を実施して、原料の混合割合による固形化の違いや、前処理の効率化、使用電力量の計測など、バイオコークスの製造に必要な各種の調査を行った。

■ 普及啓発活動

ごみ減量及びリサイクル、公社の事業内容についてホームページや各種イベントにより普及・啓発を行った。

- ① 広報活動
 - i) 公社の事業を紹介する「事業案内」の改訂版 1,000 部を平成 29 年 3 月に発行した。
 - ii) 公社の事業方針、事業計画及び実績等を取りまとめた「事業概要」250 部を平成 28 年 10 月に発行し、関係機関等に配付した。
 - iii) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を取りまとめた「平成 27 年度データ集」150 部を平成 29 年 2 月に発行し、関係機関等に配付した。
 - iv) 公社が収集運搬を行う事業系ごみの分別やリサイクルに関する取組等を紹介した情報誌「アンパス第 15 号」6,500 部を平成 29 年 3 月に発行し、顧客等に配付した
 - v) 市内の小学 4 年生児童が描いた「びん・缶・ペットボトルのリサイクル」をテーマとした啓発ポスターをごみ収集車にラッピングして、「走る掲示板」として啓発活動を行った。

- vi) 市内小学校の4年生全員に環境学習の参考資料として、びん・缶・ペットボトルの選別とリサイクルを紹介した「キッズパンフレット」18,000部を提供した。
- vii) ホームページを適宜改定し、ごみの減量・資源物のリサイクル推進、事業系ごみの収集運搬に係る情報などを発信した。

② 各種イベントへの参加

- i) 市民の環境意識向上等を目的としたイベント「環境広場さっぽろ2016」に出展し、びん・缶・ペットボトル選別事業の紹介を行った。
- ii) 「かんきょうみらいカップ2016」、「さっぽろこども環境コンテスト2016」等のイベントに協賛するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用し、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発を行った。

③ 見学者の施設案内

ごみの適正処理やリサイクルの普及活動として各施設への見学者を受け入れており、平成28年度も「ごみ・リサイクル」を学習するカリキュラムとして主に小学4年生など、数多くの見学者を受け入れた。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 60,284,938 円)

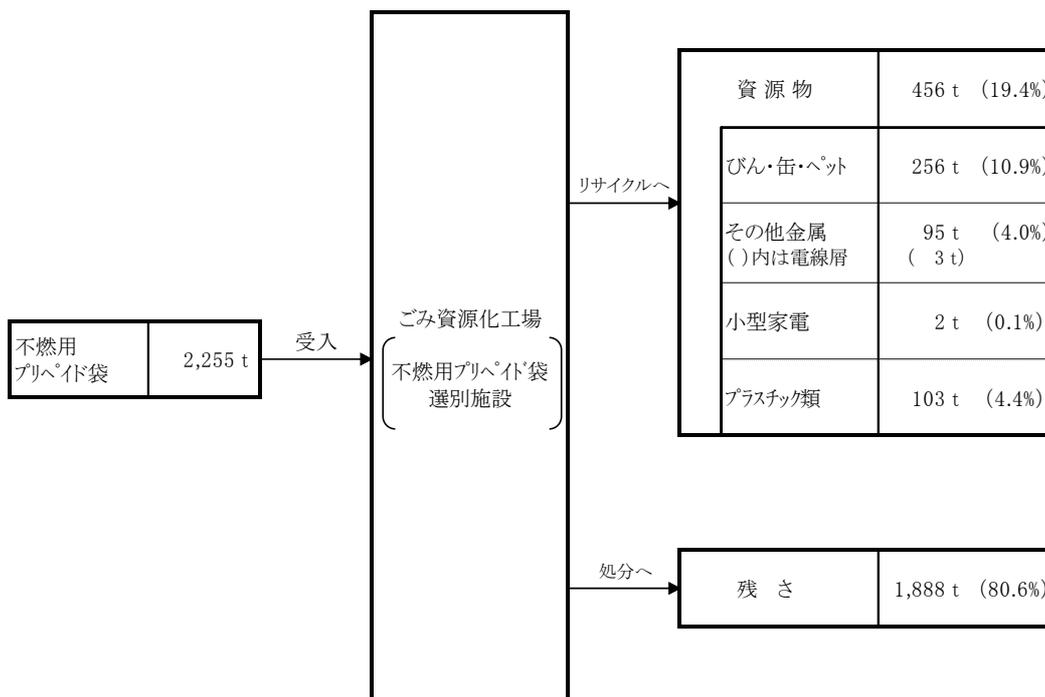
本事業では、札幌市内の少量排出事業所から排出される不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルなどを選別し、埋立量の低減及びリサイクルを推進している。

■ 処理実績

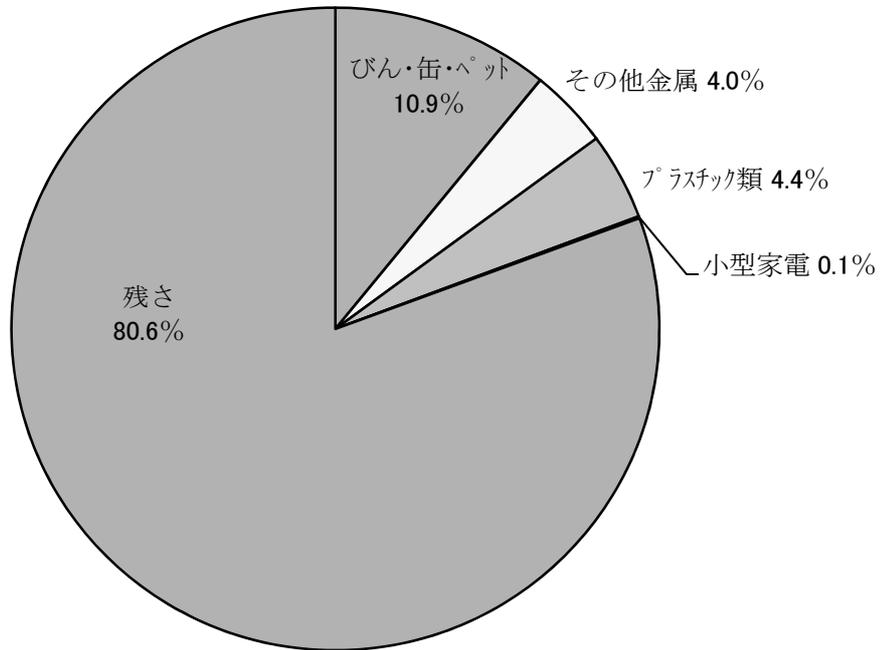
平成 28 年度の不燃用プリペイド袋受入量は、計画量 2,290t に対し 2,255 t で、前年度 2,334 t に対して 3.4%の減少であった。搬出量は 2,344 t で、資源物 456 t を選別した。

不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルは選別後、中沼資源選別センターへ搬入し、リサイクル業者へ引き渡した。また、一斗缶等のその他金属及び小型家電は業者へ売却、ビニール類等の軟質系プラスチック類は固形燃料の原料として再資源化を図った。

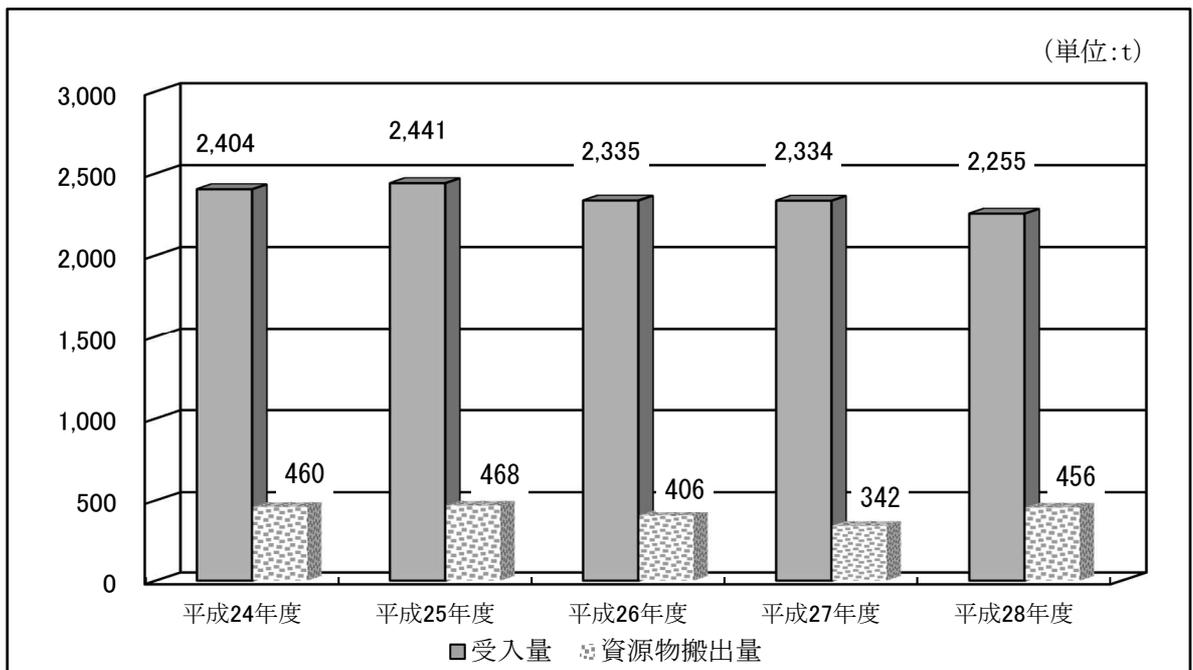
【図 2-1 平成 28 年度 不燃用プリペイド袋処理実績フロー図】



《グラフ 2-1 平成 28 年度 資源物・残さ搬出割合》



《グラフ 2-2 不燃用プリペイド袋受入量と資源物搬出量（年度別）》



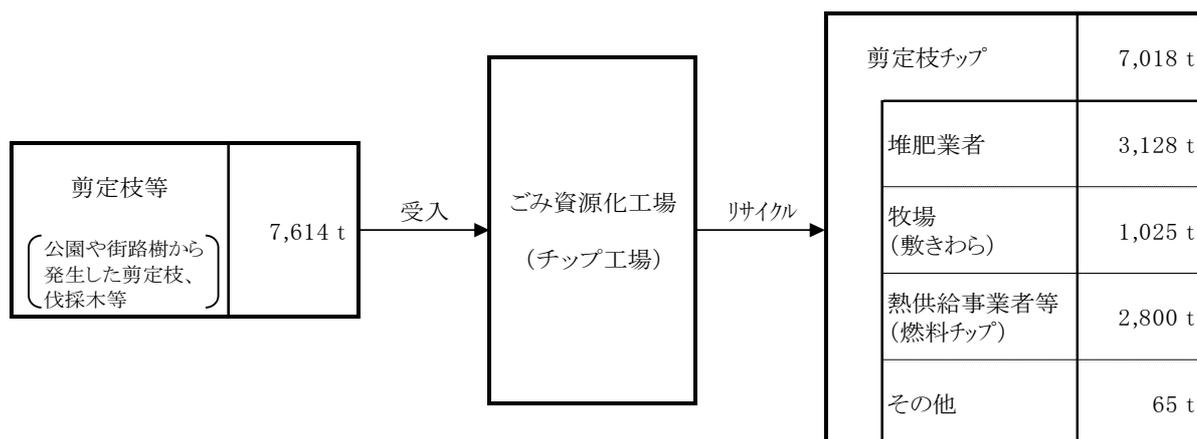
3 資源化事業 (決算額 1,143,955,871 円)

3-1 剪定枝等処理事業 (決算額 63,069,755 円)

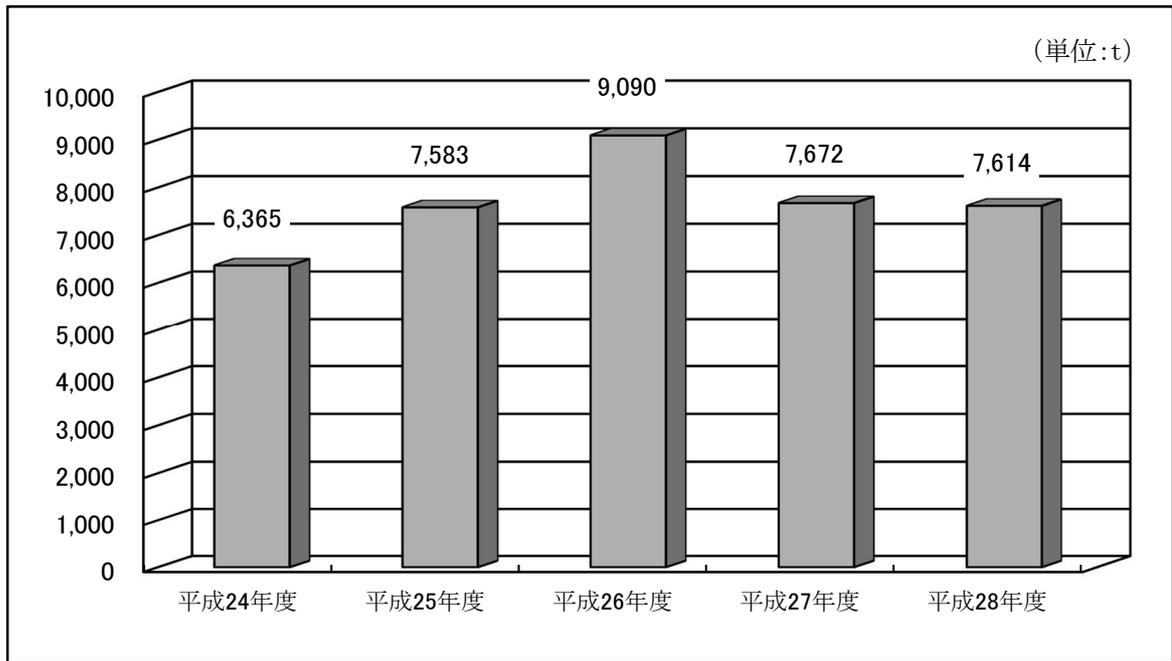
本事業は、当会社の自主事業で、札幌市内の公園や街路樹等から発生した剪定枝、伐採木等を、チップ工場破碎施設で約45mmの大きさのチップに加工して、堆肥や畜舎の敷きわらなどとしてリサイクル業者及び酪農家に販売している。また、近年では燃料チップとして、熱供給事業者等への出荷量も増加している。

平成28年度の剪定枝等受入量は、計画量7,000tに対し7,614tで、前年度7,672tと同程度の受入量であった。また、剪定枝等チップの出荷量は、計画量6,500tに対し7,018tで、前年度8,057tに比べ12.9%の減少となった。

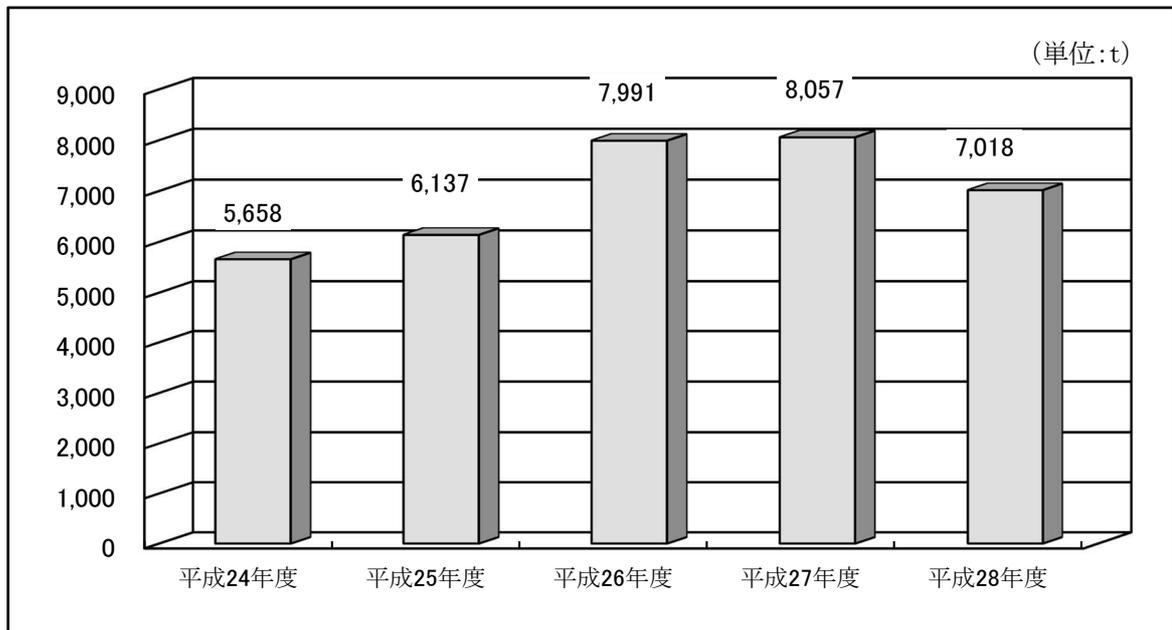
【図3-1 平成28年度 剪定枝等処理実績フロー図】



《グラフ 3-1 年度別剪定枝等受入量》



《グラフ 3-2 年度別チップ出荷量》



3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 917,336,466円)

平成28年度の資源物の全体受入量は、計画量35,980tに対し35,457t(家庭系33,857t、事業系1,600t)であり、選別搬出された資源物は計画量25,903tに対し、びん類11,974t(白びん4,603t、茶びん3,964t、その他びん3,407t)、缶類6,260t(アルミ缶3,739t、スチール缶2,521t)、ペットボトル7,254tの合計25,488tであった。

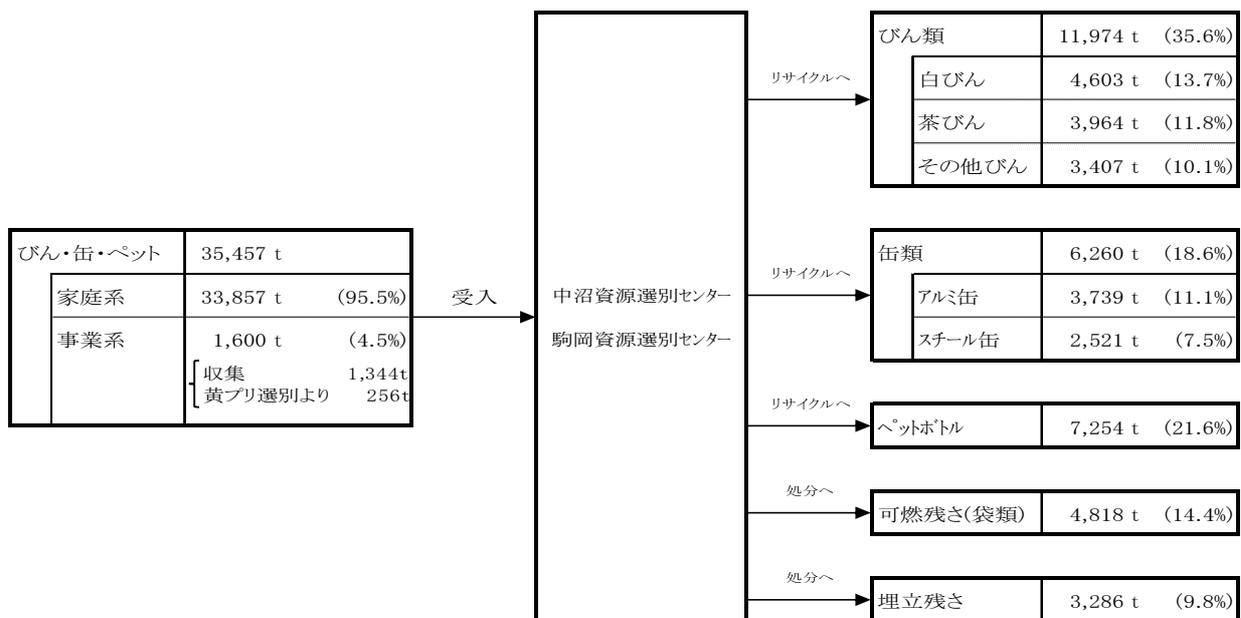
また、平成28年度は3,466人の見学者を迎え、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通してびん・缶・ペットボトルリサイクルの啓発を行った。

選別された資源物は、次のようにリサイクルを図った。

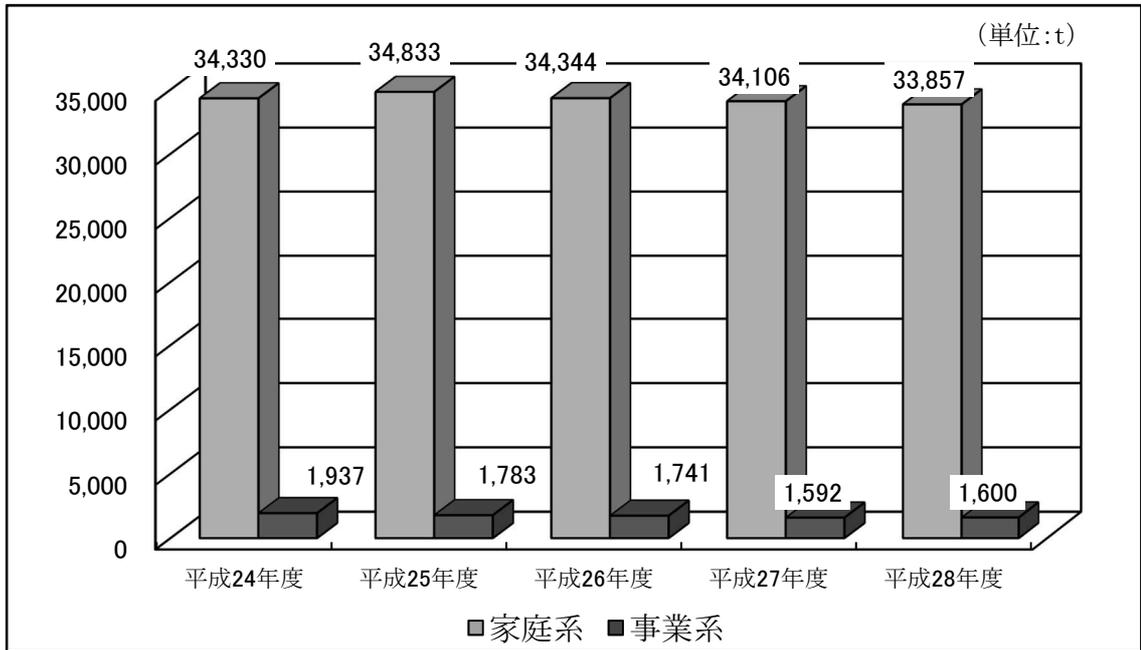
- ① びん類については、白・茶・その他びんに分け、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者へ引き渡し、それぞれ再生利用を図った。
- ② 缶類については、家庭系(市)及び事業系(公社)ともに、リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図った。
- ③ ペットボトルについては、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図った。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、知的障がい者に雇用の場を提供するために福祉団体に業務を委託している。

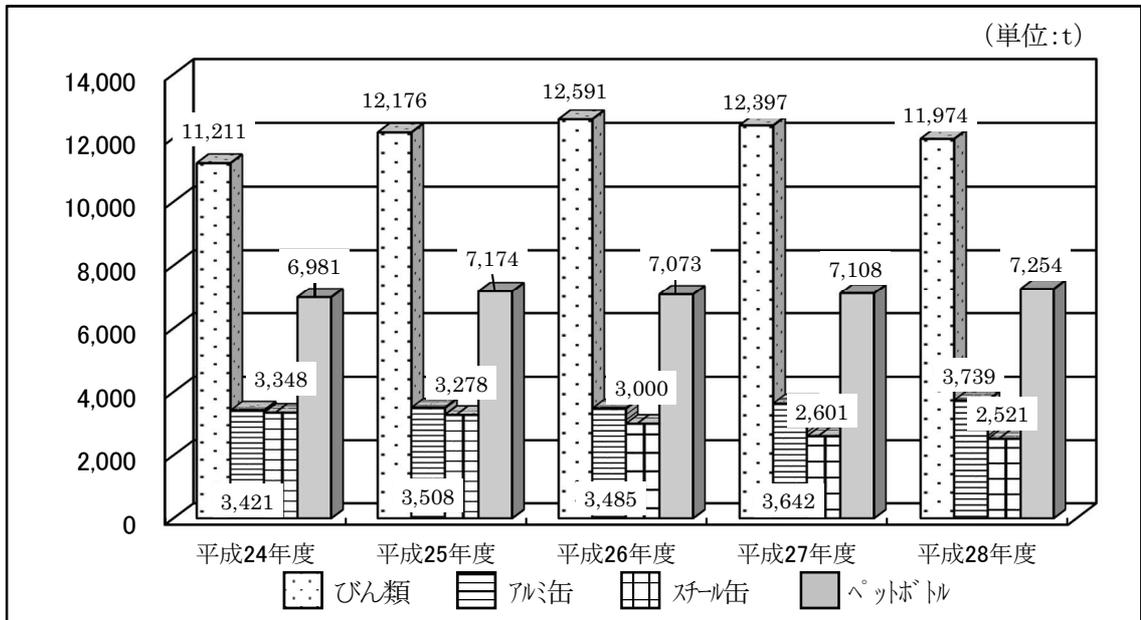
【図3-2 平成28年度 びん・缶・ペットボトル選別センター選別実績フロー図】



《グラフ 3-3 びん・缶・ペット受入量（年度別）》



《グラフ 3-4 資源物搬出量（年度別）》



3-3 施設管理受託事業 (決算額 138,120,454円)

平成28年度は、札幌市の5施設の施設管理(総括管理)業務を受託し、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、次の事業を実施した。

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (決算額 75,343,312円)

ごみ資源化工場は、札幌市の処理計画に基づき、主に事業系の木くず、紙くず、廃プラスチックを選別破碎後、圧縮成形して固形燃料(RDF)を生産している。

当社は、ごみ資源化工場の施設運営に係る監督等の総括管理業務及び搬入ごみの計量業務を含む施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託事業として実施した。

また、平成25年度から、家庭系の大型ごみや事業系の建設廃材等を受け入れし、破碎・選別を行っている篠路破碎工場及び破碎工場付帯施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託業務として実施している。

■ ごみ資源化工場処理実績

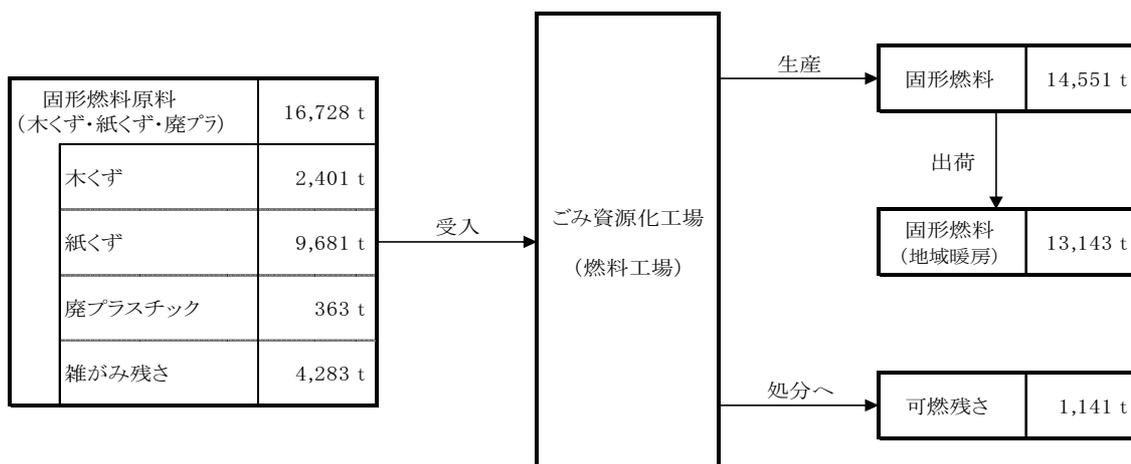
平成28年度のごみ受入量は、計画量18,900tに対し16,728tで、前年度17,853tに比べ6.3%の減少となった。受入量の内訳は、木くずが2,401t、紙くずが9,681t、廃プラスチックが363t、雑がみ残さが4,283tであった。

固形燃料の出荷量は、計画量16,500tに対し13,143tで、前年度16,596tに比べ20.8%の減少となった。また、生産した固形燃料は、北海道地域暖房㈱に出荷した。

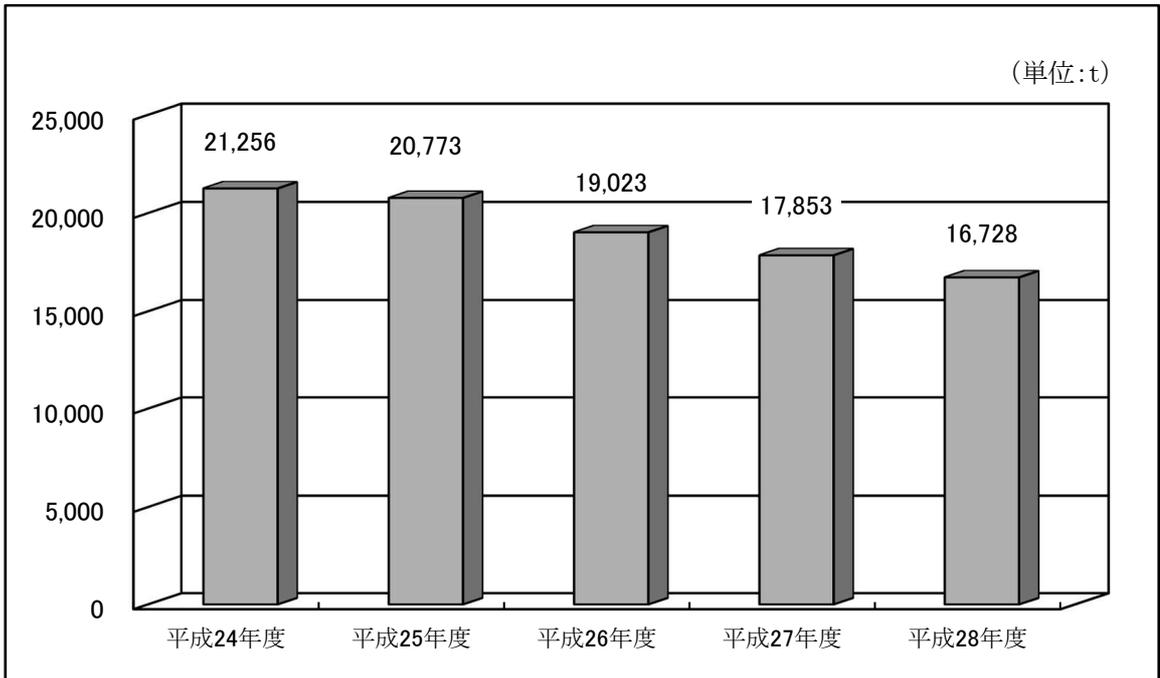
(受入量及び出荷・処分量)

・ごみ受入	16,728 t	13,540 台	{ 一般廃棄物：10,908 台 産業廃棄物：2,632 台
・固形燃料出荷	13,143 t	1,565 台	
・残さ処分	1,141 t	296 台	

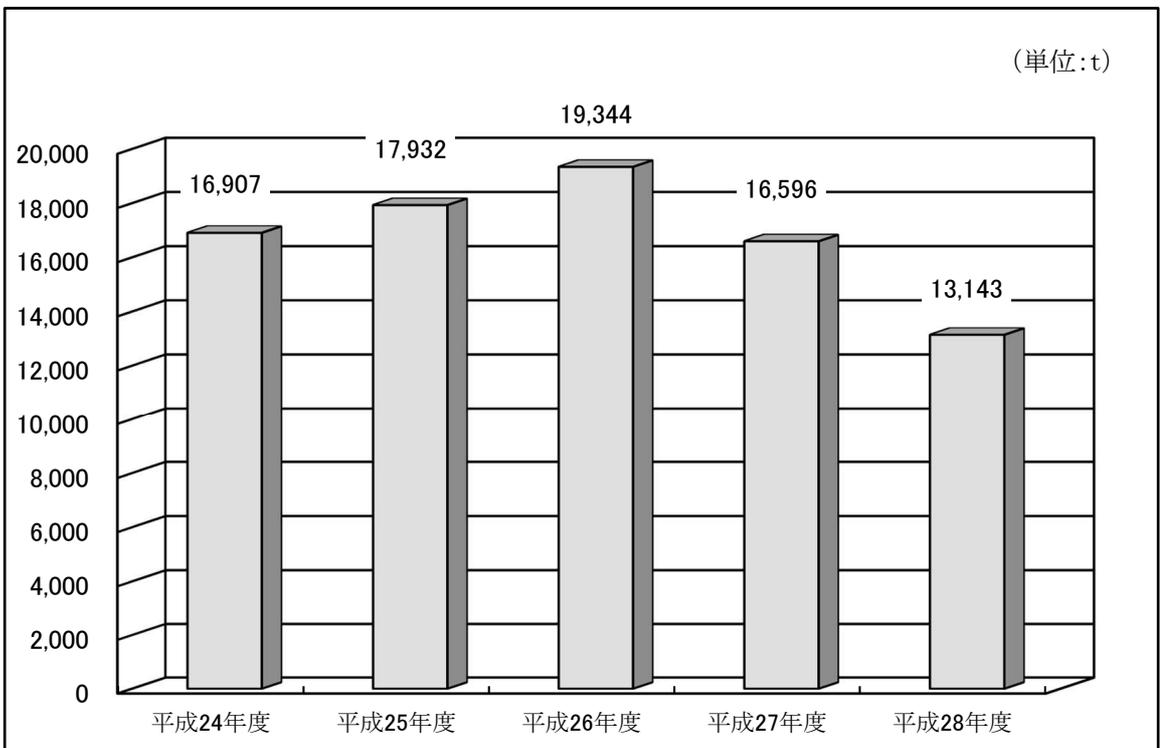
【図3-3 平成28年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



《グラフ 3-5 ごみ資源化工場受入量（年度別）》



《グラフ 3-6 固形燃料出荷量（年度別）》



■ 篠路破碎工場処理実績

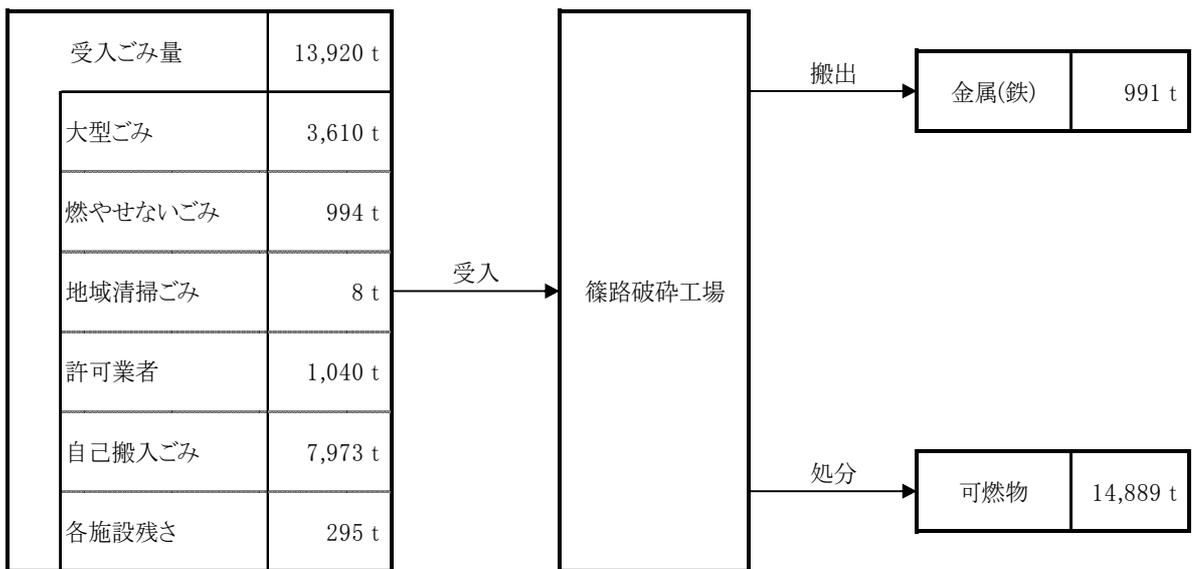
平成 28 年度の篠路破碎工場ごみ受入量は、計画量 12,700t に対し 13,920 t で、前年度実績 12,058 t に比べ 15.4% の増加となった。受入量の内訳は、大型ごみが 3,610 t、燃やせないごみが 994 t、地域清掃ごみが 8 t、許可業者が 1,040t、自己搬入ごみが 7,973 t、各施設残さが 295t であった。

搬出量は 15,880t で内訳は、金属(鉄)が 991t、可燃物が 14,889t であった。

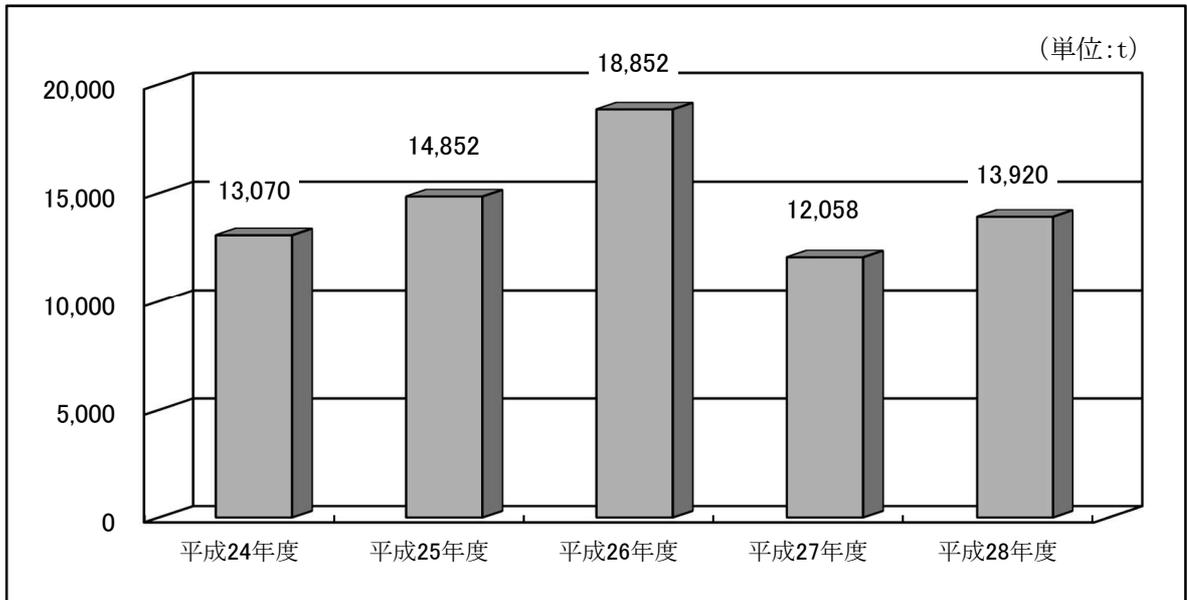
(受入量及び搬出・処分量)

・ごみ受入	13,920 t	28,122 台
・金属(鉄)搬出	991 t	173 台
・可燃物処分	14,889 t	4,016 台

【図 3-4 平成 28 年度 篠路破碎工場処理実績フロー図】

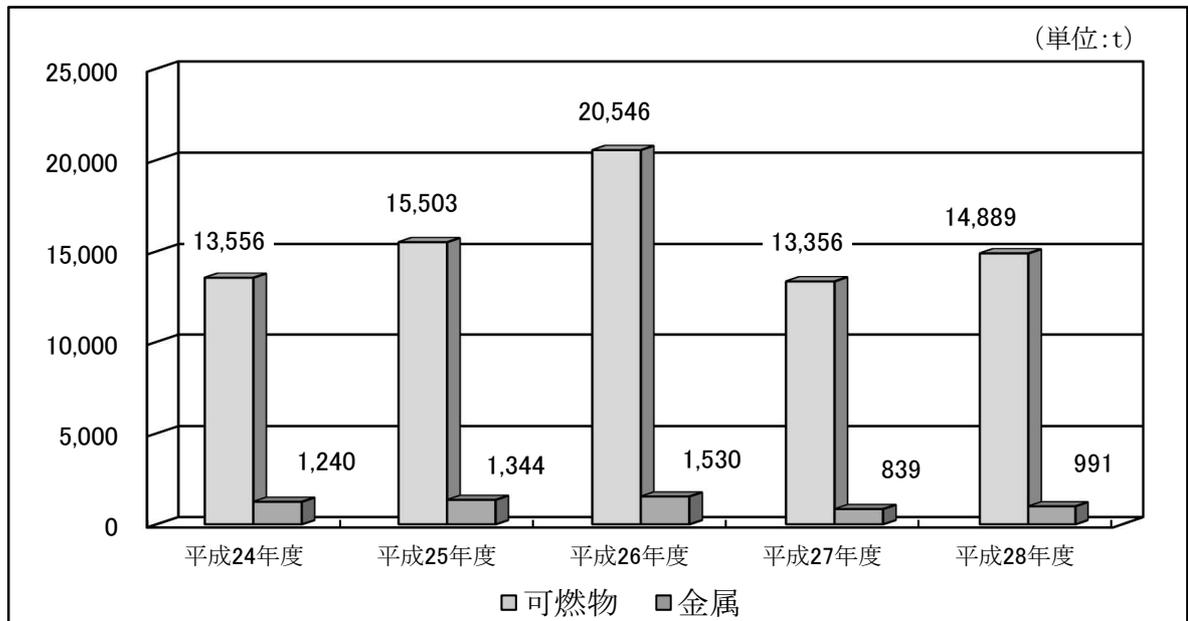


《グラフ 3-7 篠路破碎工場受入量（年度別）》



※ 平成24年度までは札幌市による運営管理

《グラフ 3-8 篠路破碎工場搬出量（年度別）》



※ 平成24年度までは札幌市による運営管理

(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (決算額 27,012,458 円)

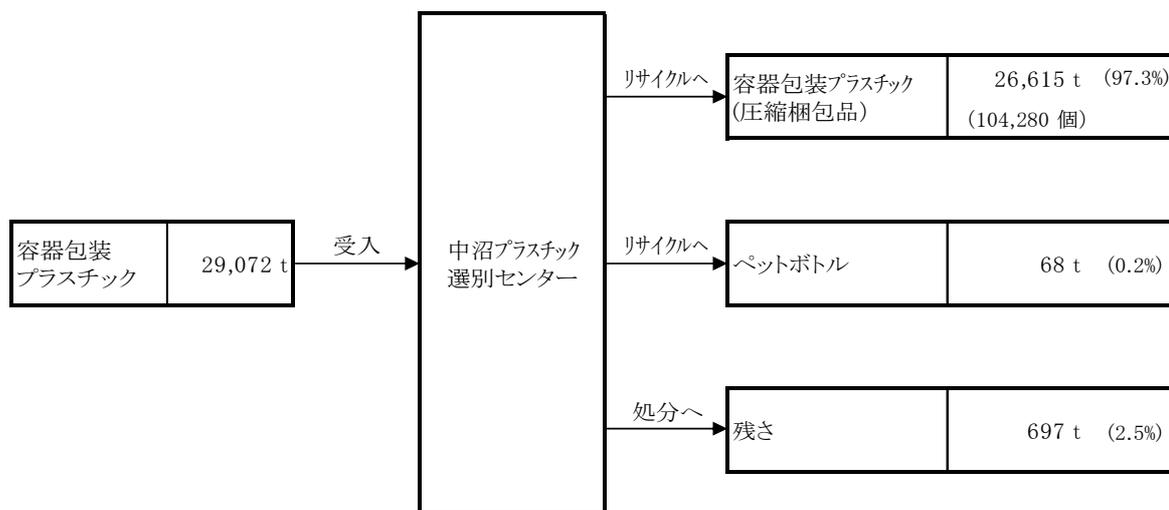
中沼プラスチック選別センターは、札幌市の処理計画に基づき、容器包装プラスチックを選別後、圧縮梱包して再商品化事業者に引き渡しを行っている。

当社は、札幌市から別途発注された施設の運転などに対する監督、選別・圧縮された容器包装プラスチックの品質管理、再商品化事業者等との調整及び引渡し業務を札幌市からの受託事業として実施した。

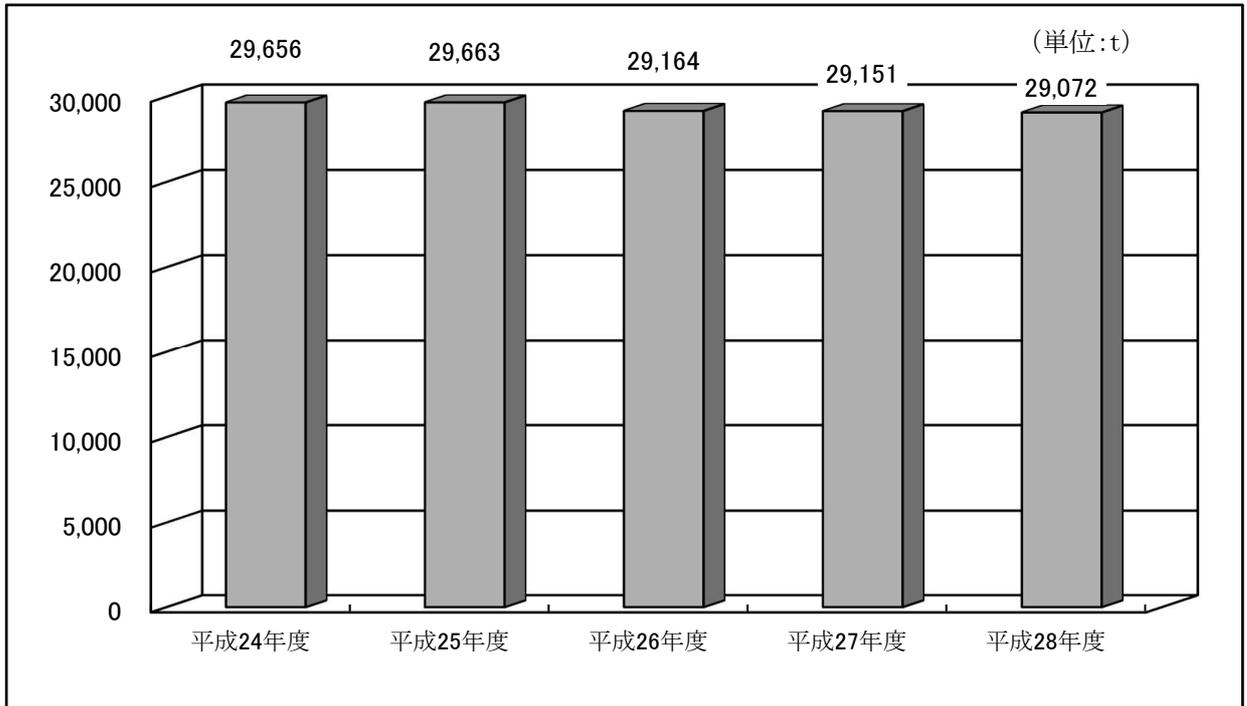
平成28年度の容器包装プラスチック受入量は、計画量29,200 tに対し29,072 tとなり、前年度29,151 tとほぼ同程度の受入量となった。また、選別後に圧縮梱包されて再商品化事業者等に引き渡された分別基準適合物の量は、計画量26,300 tに対し26,615 tで前年度26,363 tに比べ0.95%の増加となった。

また、平成28年度は1,955人の見学者を迎え、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通してプラスチックリサイクルの啓発を行った。

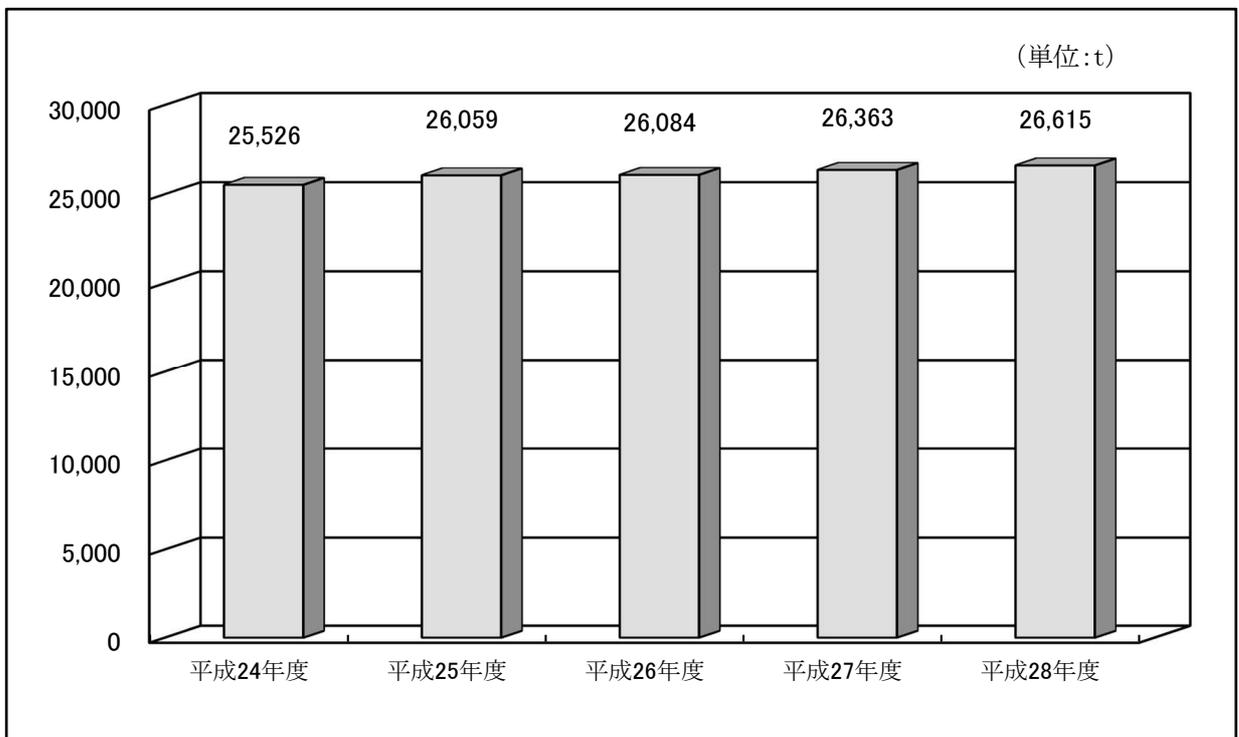
【図3-5 平成28年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】



《グラフ 3-9 容器包装プラスチック受入量 (年度別) 》



《グラフ 3-10 容器包装プラスチック (圧縮梱包品) 搬出量 (年度別) 》



(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (決算額 16,893,952 円)

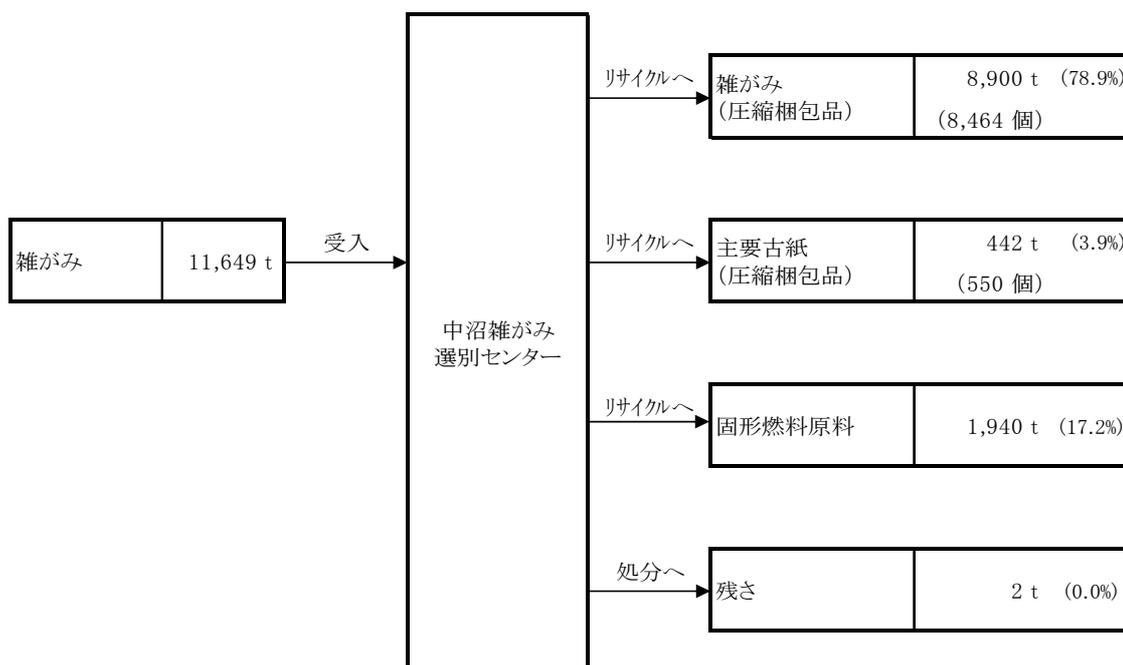
中沼雑がみ選別センターは、札幌市の処理計画に基づき、雑がみと主要古紙を選別後、圧縮梱包してリサイクル事業者に引き渡しを行っている。

当社は、札幌市から別途発注された施設の運転などに対する監督、選別・圧縮された雑がみと主要古紙の品質管理、リサイクル事業者等との調整及び引渡し業務を札幌市からの受託事業として実施した。

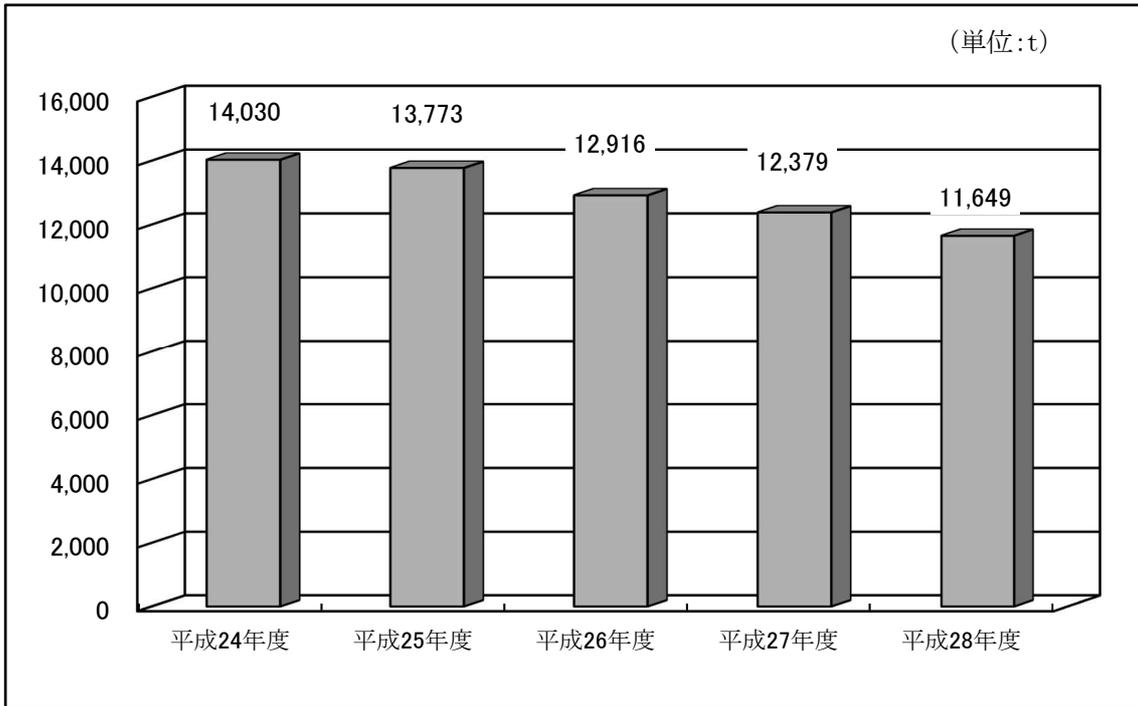
平成 28 年度の雑がみ受入量は、計画量 9,730 t に対し 11,649 t で、前年度 12,379 t に比べ 5.9% の減少となった。

また、選別後に圧縮梱包されてリサイクル事業者に引き渡された雑がみは、計画量 7,200 t に対し 8,900 t で、前年度 9,561 t に比べ 6.9% の減少、また主要古紙は、計画量 630 t に対し 442 t で、前年度 537 t に比べ 17.7% の減少となった。

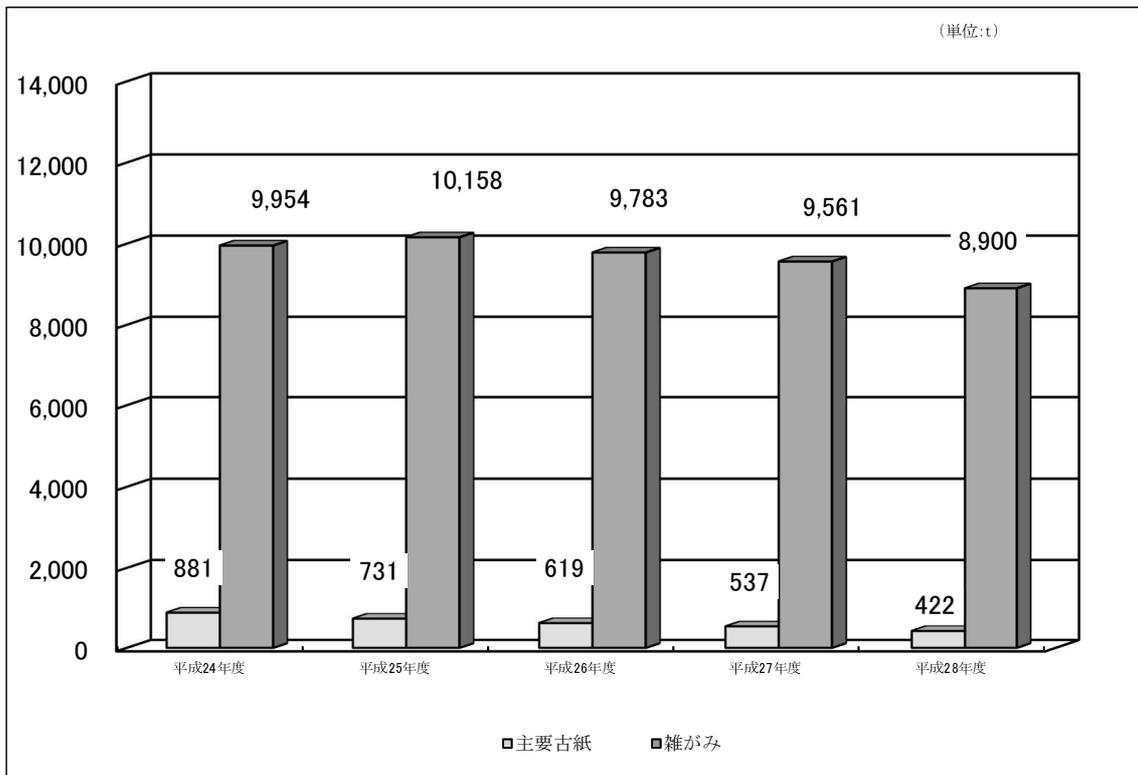
【図 3-6 平成 28 年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】



《グラフ 3-11 雑がみ受入量（年度別）》



《グラフ 3-12 雑がみ等搬出量（年度別）》



(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 18,870,732 円)

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群で、団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体がそれぞれ行っている。

現在、約23haの団地内に、民間処理業者6社、当公社、及び札幌市の9施設が稼働している。

当公社は、リサイクル団地参入企業間の連絡調整、共用施設や団地内道路の維持管理等の業務を札幌市からの受託事業として実施した。

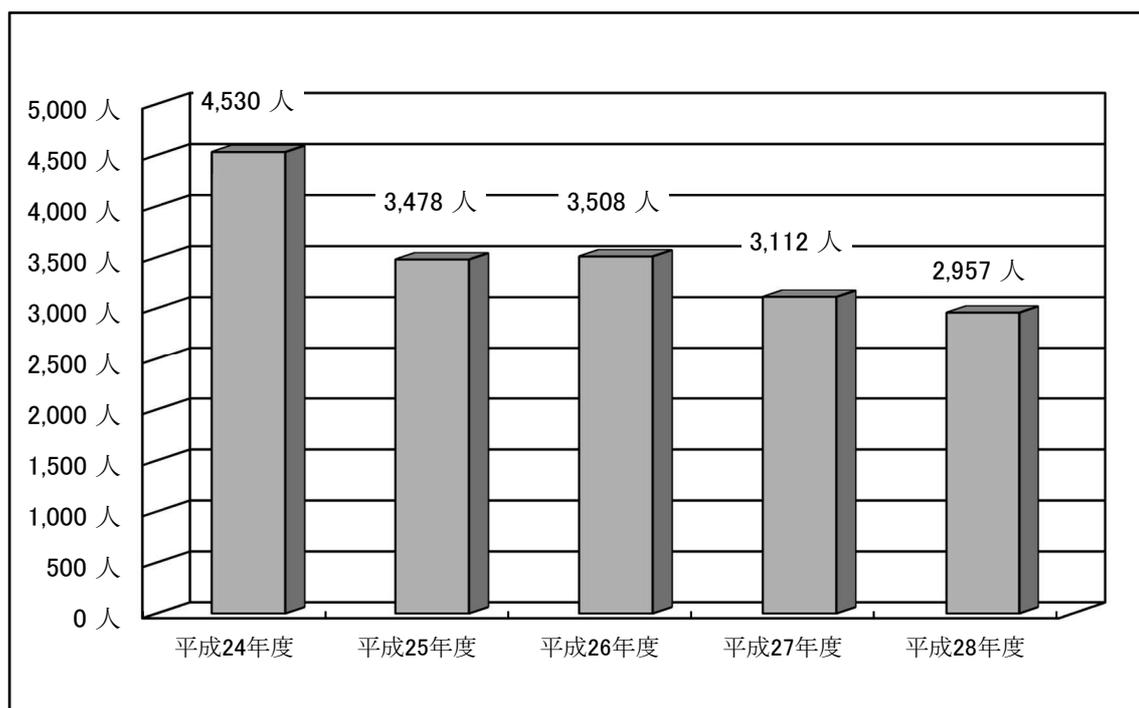
■ 業務内容

- ① リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- ② リサイクル資料館・ふれあいホールの維持管理業務
- ③ 井水供給設備の維持管理業務
- ④ リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- ⑤ リサイクル団地協議会の開催
- ⑥ その他管理業務

■ 見学実績

平成28年度のリサイクル団地の見学実績は、件数150件、見学者数2,957人であった。

《グラフ3-13 リサイクル団地見学者実績（年度別）》



【図3-7 札幌市リサイクル団地 施設配置図】



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業 (決算額 25,429,196円)

札幌市の大型ごみは、平成9年10月からそれまでのステーション方式から電話申込による戸別収集となり、平成10年1月からは有料制が導入された。

当社は、平成11年4月から大型ごみ収集センターの管理運営業務を札幌市より受託し実施している。

■ 業務内容

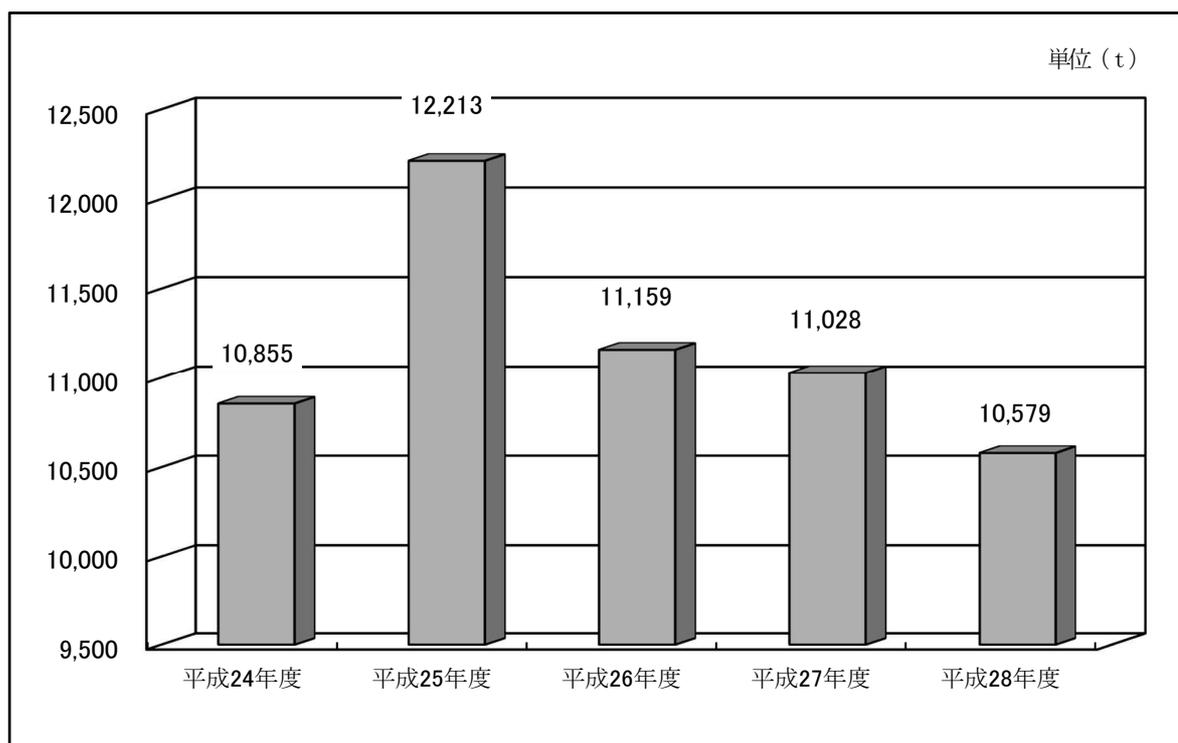
大型ごみ、リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整

- ① 札幌市及び電話受付業務受託者との連絡調整
- ② 収集車両台数の調整、未収集物に係る連絡調整
- ③ 電話受付業務受託者が回答困難な苦情・問い合わせ等への対応

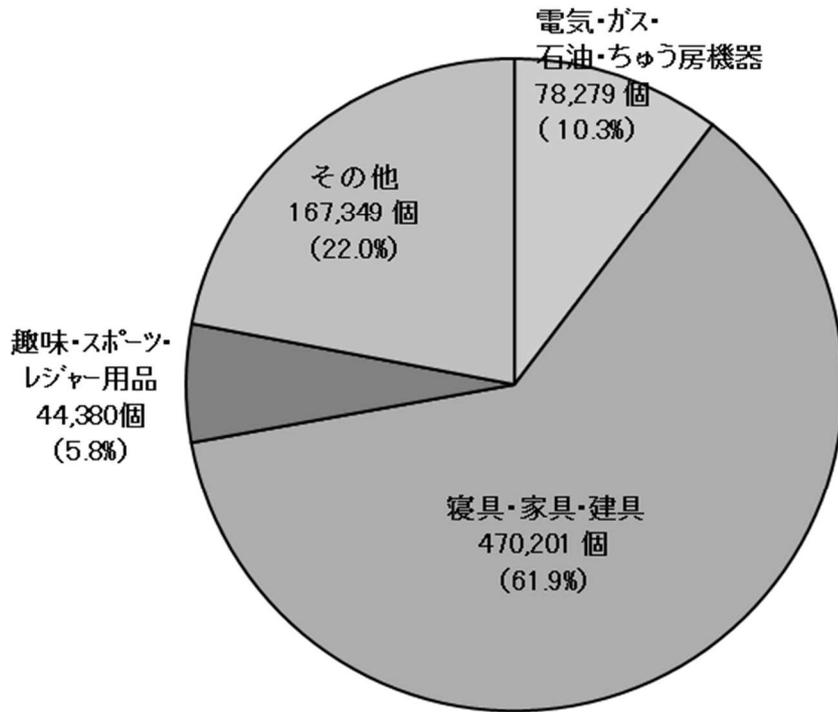
■ 平成28年度実績

- | | | |
|--------|-----------|------------------|
| ① 収集量 | 10,579 t | (計画量: 12,300 t) |
| ② 受付件数 | 435,182 件 | (計画量: 503,000 件) |
| ③ 収集件数 | 299,821 件 | (計画量: 352,000 件) |
| ④ 収集個数 | 760,148 個 | (計画量: 877,000 個) |

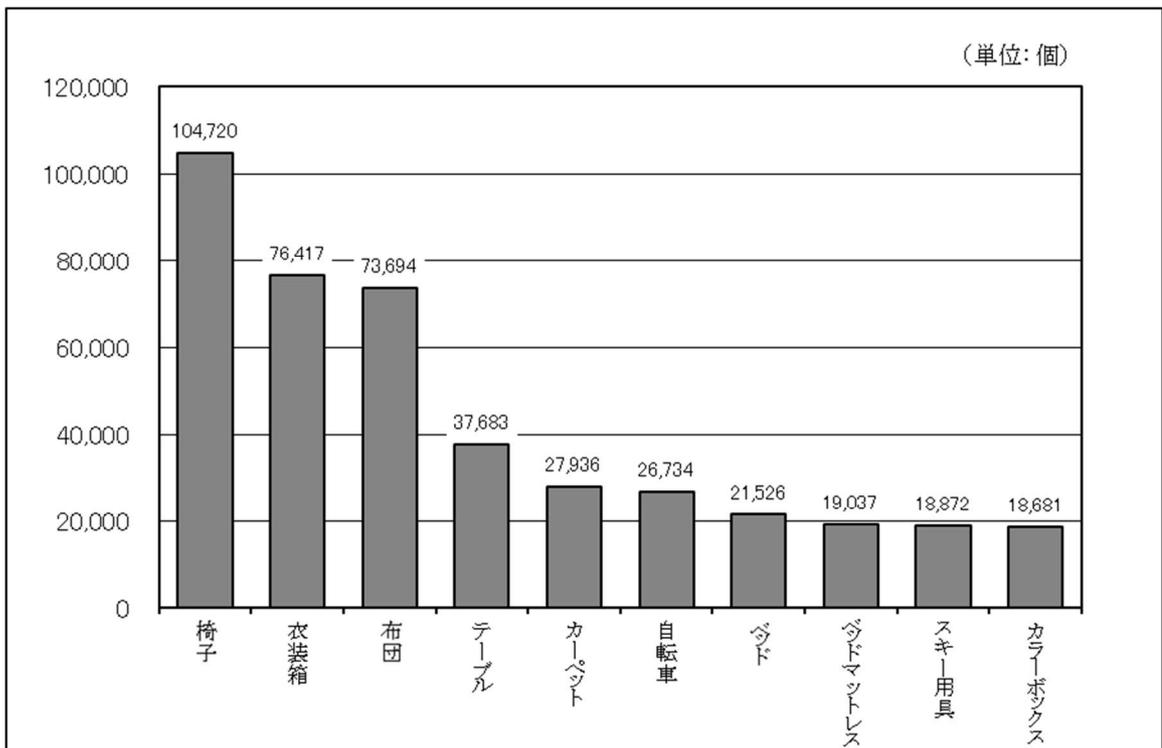
《グラフ3-14 大型ごみ収集量(年度別)》



《グラフ 3-15 収集品目大分類内訳》



《グラフ 3-16 主な収集品目（上位 10 品目）》



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 6,202,672,105 円)

■ ごみ収集量について(表 4-1、4-2 参照)

① 総収集量

- i) 体積では、1,038,963 m³と前年度実績 1,041,990 m³に比較し 0.3%の微減、重量でも、169,101t と前年度実績 170,286t に比較し 0.7%の減となった。
- ii) ごみ種のうち、一般ごみ(0.4%)、不燃用プリペイド袋(1.2%)、剪定枝(5.1%)などは増加となったが、資源化ごみ(△4.9%)、生ごみ(△2.0%)などは減少となった。
- iii) 札幌市へ支払う処分手数料等の基礎となる重量によるごみ収集量は、前年度実績と比較して、0.7%の減となった。
- iv) 「廃棄ごみ」(清掃工場、埋立地へ搬入する一般ごみ)の収集量は、体積で総収集量の 80.2%、また、「リサイクルごみ」の収集量は、総収集量の 19.8%となった。

② 廃棄ごみ収集量

収集量は、832,815 m³と前年度の 829,162 m³に比較し、0.4%の微増となった。

③ リサイクルごみ収集量

i) 資源化ごみ(木くず、紙くず、廃プラスチック類)

固形燃料(RDF)の原料として、ごみ資源化工場へ搬入した。

収集量は、112,670 m³と前年度の 118,409 m³に比較し 4.9%の減少となった。

ii) 生ごみ

飼料や堆肥の原料として、札幌飼料化リサイクルセンター、南区定山溪及び石狩市の生ごみリサイクル施設へ搬入した。

収集量は 48,181 m³と前年度の 49,128 m³に比較し 2.0%の減少となった。

なお、札幌市教育委員会では、食育教育の一環として、学校給食での残食を一部堆肥化し、その堆肥を利用し契約農家が作付けをしたレタス、とうもろこし、玉ねぎなどを給食メニューに使った「さっぽろ学校給食フードリサイクル」事業を展開しており、市内の 298 小中学校が参加し各リサイクル施設への搬入に協力している。

iii) 不燃用プリペイド袋(資源物・燃やせないごみ専用袋)

不燃用プリペイド袋に混入している、びん・缶、金属などの再生可能な資源物をリサイクルするため、篠路資源化センターへ搬入した。

収集量は 26,355 m³と前年度 26,056 m³に比較し 1.2%の増加となった。

iv) 剪定枝

樹木の剪定枝、幹、根など堆肥、畜舎の敷きわら及び燃料チップにリサイクルするため、篠路資源化センター内にある処理施設へ搬入した。収集量は 1,918 m³と前年度 1,826 m³に比較し 5.1%の増加となった。

v) びん・缶・ペットボトル

中沼資源選別センター及び駒岡資源選別センターへ搬入した。

収集量は 17,023 m³と前年度 17,409 m³に比較し 2.3%の減少となった。

④ 家庭用パソコンのリサイクル(回収メーカー不在又は自作パソコン等)

資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは、各メーカーが回収しているが、回収メーカー不在や自作パソコン等は当公社で回収している。

平成 28 年度は、パソコン本体等 20 台、ブラウン管ディスプレイ等 38 台の合計 58 台と前年度 60 台に比較し 2 台の減少となった。

■ 契約件数

平成 28 年度末現在の伝票収集による契約件数は 9,893 件、プリペイド袋収集による契約件数は 21,617 件の合計 31,510 件となり、前年度から 209 件減少した。

■ 重点事業

① 事業系ごみ収集運搬の効率化

収集効率が悪く曜日別やごみ種別に見直し可能な8つの収集コースの見直しを実施するとともに 1 回当たりの収集量の少ない事業所の収集回数を減少するなど、プリペイド袋事業所の収集実績に応じた収集回数の変更折衝などを行った。

② 家庭系一時多量ごみの収集

平成 28 年 9 月から市民ニーズに応えられるよう専用車により市内全域で月曜日から土曜日まで毎日収集できる機動力のある収集体制を開始した。

③ ごみ収集マイスター認定制度

お客様サービスの一環として、収集員の作業における技能・安全意識の向上、顧客満足度の高いサービスの提供、安心・安全と信頼性の確保などを目的に「ごみ収集マイスター認定制度」を新たに設け、平成 28 年度は 11 名を「ごみ収集マイスター」として認定した。

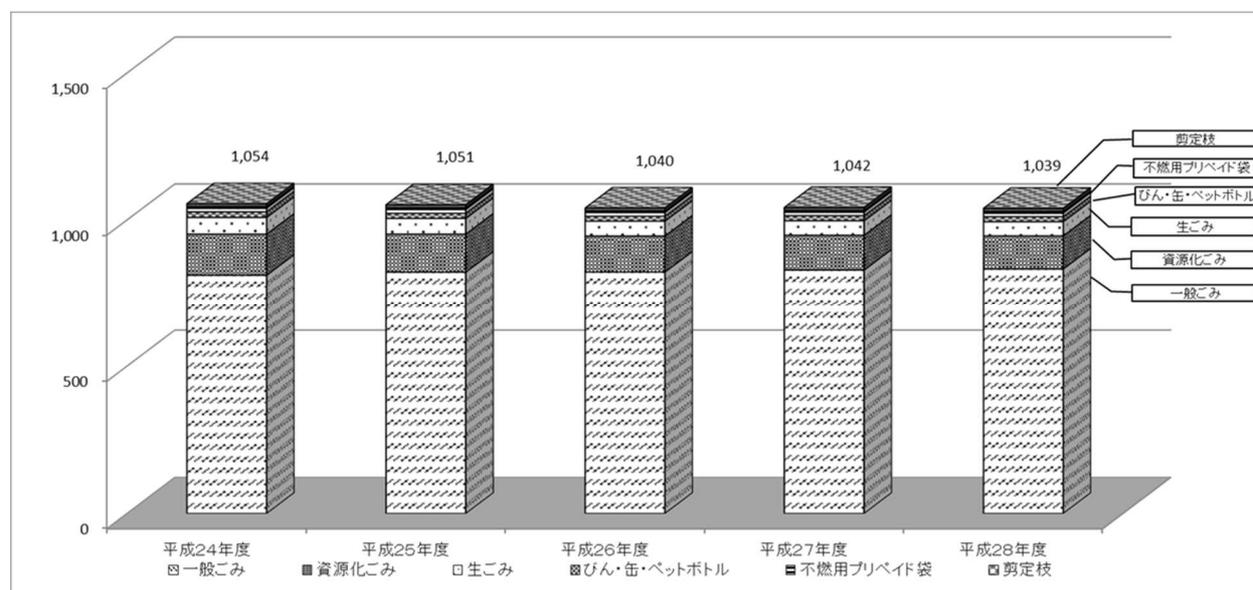
【表 4-1 平成 28 年度 収集量(体積)】

(単位: m³)

項目 月	総量 (体積)	内 訳					
		廃棄ごみ	リサイクルごみ				
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プリペイド袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4月	85,887	68,085	10,286	3,774	2,193	221	1,328
5月	85,477	68,719	9,031	4,053	2,127	124	1,423
6月	85,927	68,272	9,593	4,174	2,257	180	1,451
7月	87,880	70,271	9,438	4,200	2,246	171	1,554
8月	89,486	72,398	8,352	4,520	2,406	61	1,749
9月	88,164	70,698	9,206	4,146	2,302	236	1,576
10月	89,357	71,795	9,524	4,010	2,133	489	1,406
11月	86,870	69,945	9,355	3,868	2,159	229	1,314
12月	91,346	73,082	10,072	4,314	2,299	121	1,458
1月	80,186	65,350	8,147	3,520	1,953	0	1,216
2月	78,658	63,088	8,749	3,634	1,948	25	1,214
3月	89,725	71,113	10,917	3,968	2,333	60	1,334
合計 (割合)	1,038,963	832,815 (80.2%)	112,670 (10.9%)	48,181 (4.6%)	26,355 (2.5%)	1,918 (0.2%)	17,023 (1.6%)
27年度	1,041,990	829,162	118,409	49,128	26,056	1,826	17,409
前年比	-0.3%	0.4%	-4.9%	-2.0%	1.2%	5.1%	-2.3%

※数値は四捨五入のため、合計数値と内訳値が一致しない場合がある。

《グラフ 4-1 収集量(体積)の推移》

(単位: 千m³)

【表4-2 平成28年度 収集量(重量)】

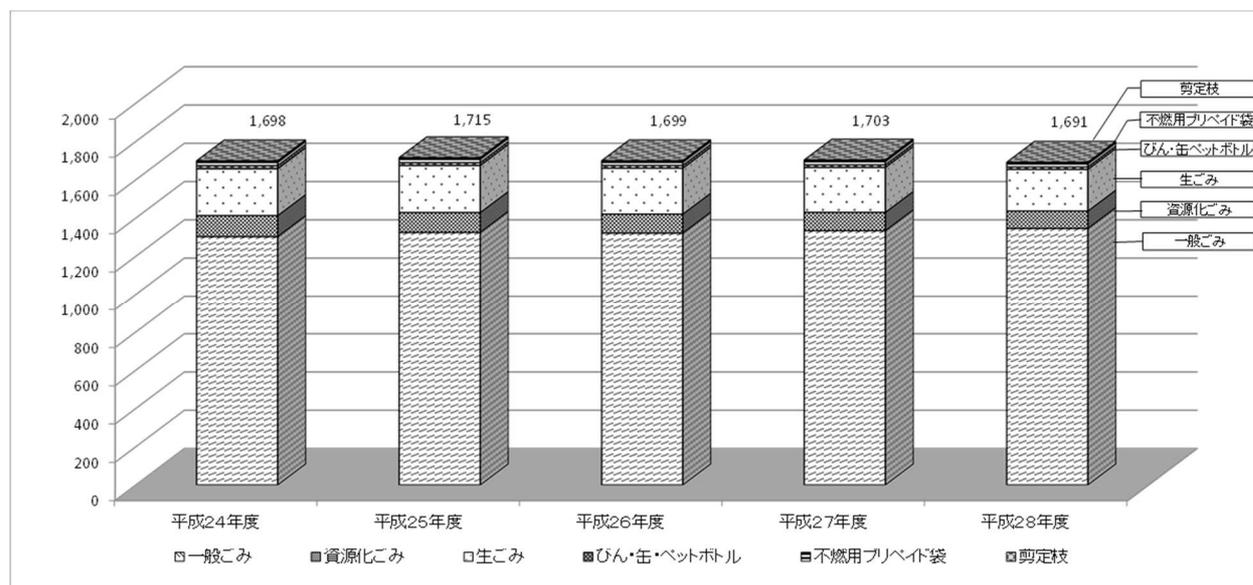
(単位:t)

項目 月	総量 (重量)	内 訳					
		廃棄ごみ	リサイクルごみ				
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 フリペイド袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4月	13,745	10,874	868	1,691	197	14	101
5月	13,981	10,951	703	2,018	189	11	109
6月	14,020	11,138	757	1,811	193	10	111
7月	14,456	11,324	744	2,076	188	8	116
8月	15,119	12,277	678	1,839	196	3	126
9月	14,383	11,380	699	1,990	184	12	118
10月	14,204	11,504	721	1,657	174	42	106
11月	13,797	11,140	715	1,639	182	17	104
12月	15,011	11,857	853	1,945	208	18	130
1月	13,334	10,787	692	1,566	179	0	110
2月	12,645	9,954	698	1,720	167	3	103
3月	14,402	11,398	930	1,763	197	5	109
合計 (割合)	169,101	134,585 (79.6%)	9,057 (5.4%)	21,716 (12.8%)	2,255 (1.3%)	144 (0.1%)	1,344 (0.8%)
27年度	170,286	133,398	9,552	23,448	2,334	140	1,414
前年比	-0.7%	0.9%	-5.2%	-7.4%	-3.4%	2.9%	-5.0%

※数値は四捨五入のため、合計数値と内訳値が一致しない場合がある。

《グラフ4-2 収集量(重量)の推移》

(単位:百t)



【プリペイド袋の販売】

少量排出事業所向けに、プリペイド方式のごみ袋を店舗等で販売している。

平成28年度の販売数は、380,884セットと、前年度実績の369,361セットに比較して11,523セット、3.1%増加した。

【表4-3 平成28年度 プリペイド袋販売実績】 (単位:セット)

販売店	販売数(セット)	備考
市民生協	21,950	25店舗
セイコーマート	208,850	324店舗
すずらん物産	78,063	-
市庁舎売店等	5,141	12店舗
商店街組合等	6,210	5団体
宅配	54,350	宅配業者
その他	6,320	公社営業職員持参
合計	380,884	

【表4-4 年度別 種類別プリペイド袋販売実績】 (単位:セット)

項目 年度	20リットル	40リットル		総販売数
	可燃	可燃	不燃	
平成28年度	12,830	298,672	69,382	380,884
平成27年度	13,564	288,662	67,135	369,361
平成26年度	11,930	267,523	62,892	342,345
平成25年度	11,664	267,609	68,924	348,197
平成24年度	13,313	320,651	83,699	417,663
平成23年度	10,721	276,166	68,170	355,057

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。